『故郷』を読み深め、「私の『故郷』研究」を書こう

本校で育成する資質・能力

「主体性」「コミュニケーション能力」「アイデンティティ」

- 1 日時 令和6年11月1日(金) 1校時(9:00~9:50)
 場所 神石高原中学校 会議室
 2 学年・組 第3学年A組(男子13名、女子8名、計21名)

3 単元観

本単元では、中学校学習指導要領(平成29年告示)国語 第3学年〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(1)「イ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること」に主眼を置く。

『故郷』は、二十世紀前半の中国を舞台として魯迅によって書かれた、竹内好訳の翻訳作品である。これまでに学習した井上ひさしの『握手』と同じく、回想場面が物語の展開に効果的に用いられている。二十年前に帰郷した主人公「私」は、心のよりどころであった故郷がすっかり変わってしまったと感じる。「豆腐屋小町」と呼ばれていたヤンおばさんや、幼い日の「私」にとって「小英雄」であったルントウの変貌に打ちひしがれ、故郷を離れようとするのだが、甥のホンルとルントウの息子シュイションとの姿から「希望」を思い浮かべるといふ物語である。中国の庶民と社会の姿を鋭い視点から描き、文学によって母国の近代化に一生を捧げる覚悟をした作者魯迅の生き方・考え方がよく表れており、様々な切り口で生徒が読み取った内容から考えを深めることができる教材だと言える。

本単元では、生徒一人一人が「『故郷』研究」と題して、批評文を書くという言語活動を設定する。風景描写の効果、人物描写の比較、「……」に託された登場人物の心情分析、竹内好訳と藤井省三訳の比較、などの多様な観点から生徒が読み深める学習活動を取り入れることで、めざす資質・能力の育成を図ることができる。

4 生徒観

本学年には国語に苦手意識を持っている生徒が多く、令和6年4月に行われた全国学力・学習状況調査では、全員が「国語の勉強は大切だ」と回答しているが、19%の生徒が国語の勉強はあまり好きではないと回答している。

質問事項		1	2	3	4
国語の勉強は大切だと思いますか	本校	61.9	33.3	0	0
	全国	62.4	31.5	4.1	1.6
国語の勉強は好きですか	本校	33.3	47.6	19.0	0
	全国	24.4	39.9	25.2	10.3

1:当てはまる 2:どちらかといえば当てはまる 3:あまり当てはまらない 4:当てはまらない

同調査において「知識・技能」が65.1%(全国平均62.0%)、「思考・判断・表現」が57.7%(全国平均55.4%)とどちらも全国平均を上回っている。読むことは54.8%(全国平均47.9%)と全国平均を上回っているものの力が十分定着しているとは言えない。話合いの話題や発言を踏まえて自分の考えを書く

分類	区分	本校	全国
評価の観点	知識・技能	65.1	62.0
	思考・判断・表現	57.7	55.4
思考力・判断力・表現力等	話すこと・聞くこと	58.7	58.8
	書くこと	61.9	65.3
	読むこと	54.8	47.9

問題では正答率57.1%(全国平均44.7%)と全国平均を12.4%上回っているが、表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する問題の正答率は42.9%(平均49.3%)と低い。いずれの

問題でも無解答が4名（19.0%）いた。さらに、後者では問題を適切に読み取れず誤答となった生徒が5名（23.8%）おり、書く力をみとる問題であるが、初めから読むことを諦めてしまうという課題がある。さらに、表現の効果を考えながら読むことができないという生徒の課題があると考えられる。

話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く	本校	全国	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する。	本校	全国
正答（三つの条件を満たす）	57.1	44.7	正答（二つの条件を満たす）	42.9	49.3
誤答（条件を二つだけ満たす）	19	32	誤答（条件を一つだけ満たす）	14.3	27.3
誤答（上記以外）	4.8	13.3	誤答（上記以外）	23.8	8.4
無解答	19.0	9.9	無解答	19.0	15.0

また、上位層の生徒と下位層の生徒の差が大きく、同調査では、正答率80%以上の生徒が8名（38.1%）に対し、正答率50%未満の生徒が8名（38.1%）である。下位層の生徒は文章を読むこと自体に大きな抵抗感があるが、小グループを活用することで、2年生時の『走れメロス』では描写を踏まえて登場人物の言動に対する評価をすること、『作られた「物語」を超えて』では批評の観点を明確にして読み取り、数値で批評することなどができてきた。自分一人で読み取ることには自信がない生徒は小グループでの意見交流や相互評価などを踏まえると描写から自分の考えを表現できるようになってきたが、語彙力、的確に主語を捉えること、概要を捉えながら文章を読み進めるなどが難しい生徒が多く、学級全体として、文章を一人で粘り強く読む力に課題がある。

5 指導観

生徒が、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について自分の意見をもつために、次の点に留意する。

- ① 生徒が本単元での学習に見通しをもち学習の意欲を高めるために、3年間の集大成として『故郷』の批評文を書くというゴールを示す。
- ② 生徒一人一人が読む必然性をもち、自立的に読み進めるために、読み取り方についての既習事項を想起させ、観点をもたせる。
- ③ お互いの気づきや学びを共有して自分の考えや意見を構築するために生徒が同時に書き込むことができるドキュメントやスライドなど、ICTを活用する。
- ④ 引用部分と自分の考えがどのようにつながっているか吟味する時間を十分に確保するために、本文をタブレットで参照及び引用できるようにする。

6 単元の目標と評価規準

〈 単元の目標 〉

- 自分の生き方や社会との関わりを支える読書の意義と効用について理解することができる。
[知識及び技能(3)オ]
- 文章を批判的に読みながら、文書に表れているものの見方や考え方について考えることができる。
[思考力、判断力、表現力等 C読むこと(1)イ]
- 言葉が持つ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。

【本単元における言語活動】

観点を決めて分析的に『故郷』を読み深め、「私の『故郷』研究」と題した批評文を書く。

<評価規準>

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度 学びに向かう人間性
自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。 (3)オ)	「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。 (C(1)イ)	粘り強く文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考え、学習の見通しをもって作品の価値について評価する文章を書こうとしている。

7 指導と評価の計画

(全9時間)

次	学習活動	指導上の留意点	観点			評 価
			知	思	態	評価規準【評価方法】
1	『故郷』学習のゴールを知り、学習活動の見通しをもつ。					
	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンスで学習の進め方を知る。 他作品や既習事項などから自分にとっての『故郷』のイメージをもつ。 難語句や脚注の語句を確認しながら通読する。 あらすじを一文で書く。(○○が▲▲によって■■になる物語。) (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 付けたい力、言語活動等について明示する。 「故郷」をイメージできる文章や詩を用意して示す。 総合的な学習の時間と関係づける。 ○○が▲▲することで■■になる話。の形で書かせる。 				
2	作品の設定を捉える。					
	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物を捉える。 現在と回想の場面に分けて表の形で整理する。 三つの変化を捉える。 ①故郷の変化 ②ヤンおばさんの変化 ③ルントウの変化 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> 文章の展開が一覧できるように記入させる。 「私」「ルントウ」「ヤンおばさん」の三人の設定に対する意図を捉えさせる。 				
3	視点をもって、作品を批評する。					
	<ul style="list-style-type: none"> 『故郷』は、なぜ名作なのかを探究する。(5時間 本時2/5) 	<ul style="list-style-type: none"> 5つの小グループを編制し、それぞれに観点をもたせる。(①登場人物の生き方や描かれ方 ②作品に描かれた時代や社会背景「新しい生活」「厚い壁」 ③構成や展開(回想場面の効果など) ④表現の効果や語句の使い方 など) 				

		<ul style="list-style-type: none"> ・個人での活動→同じ観点の生徒での交流→個人で考えを深め→小グループで交流。 ・「私」が抱く「希望」や望む社会について、文章中の表現を用いながら書かせる。 ・魯迅が書いた『藤野先生』を資料として用意しておく。 ・これまでの学習を総括し、読みの観点を2つ以上取り上げて、批評文を完成させる。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 粘り強く文章を読んで、自分の生き方や社会との関わり方について考え、主人公の生き方や作品自体の価値について評価する文章を書こうとしている。 【授業観察・ワークシート】 ○ 「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) 【ワークシート・スライド】
4	まとめ、振り返りをする。				
	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元での学びを振り返り、読書の価値や意義について自分なりの考えをもつ。 <p>(1時間)</p>				<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ)【単元のまとめ】

8 本時の学習

(1) 本時の目標

文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。

(2) 観点別評価規準

観点に沿って分析的に読み、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。

(3) 本時の展開

学習活動	◇指導上の留意事項	生徒の思考の流れ	評価規準 (評価方法)
1. しっかり Time [5分]			
①前時の振り返りを踏まえて音読する。	◇振り返りで取り上げた場면을音読するように促す。	・音読すると、新たな気づきがあるな。	
2. じっくり Time [30分]			
②本時の個人目標を確認する。		・今日は、教科書の描写をしっかりと読んで自分の意見をもちたい。	
<small>目標</small> 観点に沿って分析し、『故郷』に対する自分の考えを書くことができる。			
③個人目標に沿って分析的に読み深める。	◇既習事項を視覚的に確認できる	・これまでの学習を使えばきっと進め	

④小グループで現時点での交流をする。	ように用意しておく。 ◇つまずきが予想されるグループの支援をする。 ◇同じ観点で研究している生徒同士で話し合い、お互いの考えを深め合えるようにする。 ◇全員が一つの資料を見て情報を共有できるように指示する。	られるはず。 ・自分と同じ所に注目してもいろいろな考え方があった。みんなにどう伝えればよいか。 ・友達の気づきに驚いた。今日のまとめに生かしたい。	
--------------------	--	---	--

3. はっきり Time [10分]

⑤本時のまとめを書く。	◇どの観点で読み取ったのかを明記させ、具体的な描写を引用しながら意見が書けるように促す。		観点に沿って分析的に読み、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) ※本評価は、第3次を通して総合的に行うものとする。
-------------	--	--	--

期待されるまとめ
(例)
私は、①の登場人物の生き方や描かれ方の観点で考えます。

「私」が「いったいいつになったら忘れるつもりなのかと心の中で笑った」という表現に、「厚い壁」が隠されていると思いました。

「私」はルントウのことを小英雄と呼んでいましたが、実は自分とは違う生き方をしているルントウを馬鹿にしていると感じたからです。さらに、「母」が徐々にやってきたルントウに自分で食事を用意して食べるようにすすめていることや「あの連中」と、近所の人を呼んでいることに気づき、当時の中国の社会に「厚い壁」があることを感じました。魯迅は、この作品を読む人に「おかしい」「こんな世の中を変えたい」と思わせたかったのだと思います。

B評価：①具体的な描写をとりあげている。
 ②複数の具体例を意見の根拠としてあげている。
 ③根拠と自分の意見との結び付きを説明している。
 ④作品の価値について考えている。

4. 振り返り [5分]

⑥振り返りを書く。	◇ICT と紙媒体のいずれかを選んで記入させる。	・次回に向けて自分でもっと調べてみたい。	
-----------	--------------------------	----------------------	--